課題挑戦型インターンシップ

公益大生と消防本部が共同で行う防火イベントや研修

J1グループ

長根尚輝　橋本和斗　大澤拓海　牧田希輝　伊東凛太郎

現状

・全国的に消防イベントへの年々参加者が減っている

・**若者の参加者が少ない**

・消防イベントの知名度がない

・内容のマンネリ化

・実用性のない

公益大で消防に関する授業をつくる

目的

- 若い年代、特に大学生年代のイベントへの参加者を増やしたい
- 若い年代の人に、防災への意識を高めてもらいたい
- 大学生世代に消防、防災を身近に感じてもらいたい

目的

- 酒田で大学といえば公益大学

→公益大の授業で消防について学べれば大学生世代の若者の消防に関する知識が深まり、意識を高められるのでは

- この授業を履修することで消防に興味を持つ人が増えるのではないか

内容

- 授業の種類はプロジェクト型応用演習
- 消防、防災について学ぶ
- フィールドワークを行う(消防署の業務体験など)
- 公益大との学生消防団とも連携する
- グループに分かれ、消防署から提示していただく課題の解決に取り組む

メリット・デメリット

メリット

- 若い年代の消防、防災についての知識が深まる
- 消防に興味を持つ若者が増えるのでは
- 消防・防災を正課としてプロジェクト型応用演習科目にすれば、毎年消防・防災について学ぶ学生を輩出できる

デメリット

- 今やっているインターンよりも消防の方に来てもらわなければならない回数が増える

シラバス・授業概要の例

　災害時に冷静な判断が出来るかどうかは、防災に関する知識が大きく係わってくる。その知識を蓄えるためには、地域の防災イベントに参加することが一番有効な手段である。近年酒田では、地域の防災イベントへの参加者は増加傾向にある。しかし、若い世代、特に大学生世代のイベントへの参加率がとても悪い。本プロジェクト型応用演習では酒田唯一の大学である東北公益文科大学の学生たちに授業を通して防災についての知識を身につけてもらい、さらに消防のかかえる問題についてグループに分かれてフィールドワーク等を行い、それらの問題の改善策について検討を行う。

シラバス・到達目標の例

火事、災害などの緊急事態の時に冷静な判断をするための防災についての知識を身につける。その上で消防が抱えている様々な問題を聞き、それらについての対応策を模索することによる人材育成を目的とする。

シラバス・授業内容の例

回	授業内容	事前事後学修内容
1	ガイダンス　消防・防災について	消防署の役割、学生消防団について概要を把握する
2	消防署の取り組みについて 【外部講師：消防本部】	地域消防署の業務内容を理解する
3	防災における消防署の役割 【外部講師：消防本部】	地域消防署の業務内容を理解する
4	学生消防団について	学生消防団の目的、役割、活動内容を理解する
5	フィールドワーク1　業務体験・見学	消防署の業務をしよう
6	フィールドワーク2　業務体験・課題調査	消防署の業務を理解し、課題を抽出
7	フィールドワーク3　業務体験・課題調査	消防署の業務を理解し、課題を抽出
8	フィールドワーク4　業務体験・課題調査	消防署の業務を理解し、課題を抽出
9	業務体験課題調査まとめ	業務体験レポート作成
10	課題解決【グループワーク1課題の提案と検討】	グループワークまとめ作業
11	課題解決【グループワーク2解決策の提案】	グループワークまとめ作業
12	課題解決【グループワーク3提案のまとめ、成果報告資料作成】	発表練習
13	成果発表	レポート作成

フィールドワークの例

- 消火活動・救助活動の体験
- 職員との交流
- 地域の人との交流
- 学生消防団の活動体験

www.cis.ac.jp/~career/sangyou/pbl_p.php

課題の例

- 女性消防官増加について
- 住宅用火災報知器設置促進等電池交換とメンテナンスについて
- 消防行政が収益を出すには

将来的な目標

- 授業の中で防災士の資格取得
- 授業で学んだことを地域へ発信

まとめ

- 授業することで消防、防災について深く学べる
- 若者に消防について興味をもってもらう
- 授業だからこそ出来ることがある